

令和 6 年度 県立古河第二高等学校自己評価表

目指す学校像	生徒一人一人が、自らの夢の実現のため、いきいきと安心安全に学ぶことのできる学校づくりを力強く推進するとともに、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材を育成する。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程と進路実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 自分の進路実現を目指して積極的に取り組む生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
分かる授業の実践や朝の時間のドリル学習等を通して基礎学力の習得に一定の成果が見られた。また、授業内容はもとより進学希望の生徒に対する課外学習を含む発展的な学習機会の確保はその意欲の喚起・維持に貢献した。さらに、介護福祉士国家試験の合格率は 95.0%と過去最高となった。引き続き、基礎・発展両面の学力伸長を支援する。特に ICT 活用能力の向上とそのための研修の実施、評価基準の更なる適正化を図り、主体的に学ぶ意欲の喚起に努める。 進路指導では、多くの取組により生徒の	主体的に学ぶ意欲の喚起と基礎学力の向上、 不断の授業改善に向けた取り組み	①各教科及び教科横断的な相互授業参観を実施し、分かる授業を実践することで生徒の学ぶ意欲を喚起し、授業や家庭学習に主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。 ②学び直しをはじめ、生徒の基礎学力向上への取り組みや支援を積極的に推進する。 ③生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、I C T活用を含む学習指導に関する研修を推進し「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業への工夫・改善、評価基準の適正化を図る。 ④「生徒による授業評価」における「授業満足度」において、中間値と比較した最終値の向上および最終値平均 3.2 以上を目指す。 ⑤行事の精選と適正な実施に努め、国家試験受験要件を満たすための授業時間を確保する。 ⑥生徒の実態や進路希望に応じた特色ある教育課程の編成に努めるとともに、発展的な学習の機会を確保する。	A

別紙様式 2 (高)

進路意識の醸成に一定の成果が認められた。大学の一般入試及び医療看護系専門学校等の合格者も増えている。課外を含む進学クラスへの支援のあり方や就職希望生徒の早期からの動機付け、進路情報の適正かつ効率的な提供等が課題である。 生徒支援では、全般的な生活態度の落ち着きが成果としてあげられる。一方、基本的な生活習慣の確立やルール・マナーの遵守、公共心・社会性の涵養、個別の配慮を要する生徒への組織的支援等が課題である。 特別活動においては、学校行事・部活動への満足度は向上した。キャリアパスポートを活用した非認知能力の育成が課題である。 広報活動では、本校の特色・魅力への認知が進み、普通科志願者は定員を超え続けており、福祉科もほぼ定員並みとなった。今後の少子化を見据え、一層の広報活動の工夫と推進が課題である。 働き方改革については、勤務時間の縮減は徐々に進みつつある。定時退勤日・完全退勤時刻の遵守、職場環境の改善が課題であ	進路に関する知識と関心・意欲の高揚、進路指導の充実	⑦福祉科において介護福祉士国家試験の合格率 80%以上を維持する。 ⑧ 3 年間を見通した体系的・計画的な進路指導を実施し、生徒が自らの将来を見据えて進路決定できる意識の高揚に努めるとともに、そのための情報発信に取り組む。 ⑨年間指導計画の充実を図り、課外学習、進路講演会やコース別進路見学会等に注力する。 ⑩進学・就職の両面において、進路先のさらなる開拓と充実に努力する。 ⑪インターンシップをはじめとする生徒の職業観・勤労観を育む機会を設定し、「キャリア教育」の推進に尽力する。 ⑫就職内定率 100 %、早期離職の未然防止等を図るため、適正かつ効率的な情報提供や生徒一人一人とのより充実した面談により、的確な進路実現を目指す。 ⑬生徒の進路決定満足度 80%以上を目指す。 ⑭教科選択や授業内容・評価等に、類型ごとの特色や目標を明確にし、希望する進路に応じた進路指導を推進する。	A
	問題行動の予防と再発防止、自己指導能力の育成	⑮規律ある基本的生活習慣の定着や問題行動の未然防止・早期発見に努める。特に SNS 利用に関する指導の機会を確保する。 ⑯規範意識を高めるとともに、授業や特別活動等教育活動全体を通じて、コミュニケーション能力や自己指導能力、公共心等を育成する。 ⑰スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材及び専門機関等と連携して、生徒の健全な心身の発達を支援すると共に、特別な配慮の必要な生徒等を含めた生徒理解に努め、組織的かつ的確な指導にあたる。	A
	特別活動への積極的参加による豊かな心の育	⑱キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動・ボランティア等を通じて生徒の豊かな心を育み、主体的に学校生活や社会活動に参画	B

別紙様式 2 (高)

る。	成、キャリアパスポートの活用	する意欲を育てその充実を図る。 ⑱部活動の果たす役割を再確認しながらその積極的な参加を促し、効率的・効果的な活動に向けた工夫を図ると共にその活性化を支援する。			
	地域への情報発信と相互支援体制の充実	⑳ホームページの更新を含め、生徒の活動や普段の取り組みの様子、本校の特色等を、家庭や地域社会に適正に発信する手立てを工夫する。 ㉑探究活動を含むあらゆる機会を通して P T A、中学校、地域社会と課題を共有し、信頼と相互支援により連携・協働して生徒育成を図る体制を構築する。	B		
	持続可能な学校教育活動のための働き方改革の推進	㉒一層の業務内容の精選、効率化と平準化を図り、定時退勤日・完全退勤時間の遵守に努める。 ㉓働きやすくやりがいを感じられる職場環境の構築に向けて、相互承認と支え合う教職員関係を醸成し、多様化する価値観に対応できる意識面の改革を図る。	B		
校 務 部					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	授業時間の確保	学校行事を精選し、関係各所との調整を行うことで授業時間の確保に努める。(⑤)	A	A	○タブレットや P C を授業で活用するための研修を多く企画する。 ○観点別評価について研修できる機会を創出する。 ○生徒の実態を把握するためのより良い手段を検討する。
		授業の振替を原則として授業交換を行い、自習時間を無くすよう努める。(⑤)	A		
	基礎学力向上及び学習意欲の増進	教員の学習指導等についての研修を推進し、特にタブレットや P C を活用した授業について研修を行う。(①・③・④)	B		
		教科による「学び直し」を推進し、基礎力の定着を図るような授業改善を促すことで、各教科における授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(②・④)	A		
		保護者と連携を図るとともに、観点別評価を授業改善に反映させることで成績不振者の改善を促す。(㉑)	A		
	教育課程の編成	生徒の実態や進路希望に適応した特色の有る教育課程を編成する。(⑥)	B		

別紙様式 2 (高)

生徒支援	個々の生徒が抱える内面的課題を組織的に把握し、適切な対応により健全な心身発達の支援に努める。	学年・担任、家庭等と連携し、個別面談や家庭訪問等により問題を把握し、適切に対応することにより、問題行動の未然防止・早期発見、対応に努める。(⑰)	B	A	○生徒の変化に早期に気づくために、生徒との二者面談の時期を見直す。 ○いじめについて、生徒、保護者、教員が理解する機会を設ける。 ○学校全体で統一した指導ができるように、守らせるべきルールをまとめ、年度初めに学年に共有する。 ○個別の配慮が必要な生徒や各学年からの情報等について校内で共有する。また、対応について継続的に記録して、よりよい支援につなげる。
		スクールカウンセラーや保健部等と連携することで教育相談の充実を図る。(⑰)	A		
		いじめの対応については、未然防止と早期発見、早期対応に努め、重大事態に至ることのないようにする。(⑳)	A		
	規範意識の高揚に努め、自己指導能力の育成を図る。	ルールを守る意義を理解させ、自ら考え適切な行動選択ができるよう支援する。(⑮・⑯)	B		
		規律ある基本的生活習慣の定着を目指し、面談・HR・集会等、さまざまな形を組み合わせ指導する。(⑯・⑰)	B		
		学校全体で統一した指導となるよう、各学年との連携を図るとともに、時代に即した生徒支援のあり方を目指す。(⑮)	B		
	特別な配慮を要する生徒を把握し、個に応じた指導に努める。	支援を必要とする生徒はもとより、周囲の生徒も安心して学校生活を送ることができるような視点で体制を構築する。(⑰)	A		
		教職員の研修等を通して意識高揚に努めるとともに、外部の専門機関と適宜連携することで生徒理解に基づく的確な指導を心がける。(⑰)	A		
進路指導	職業観および進路意識を高めるためにキャリア教育を充実させる。	進路見学会(1・2 学年)や進路セミナー等の外部との関わりを通じて、進路意識を高めるように努める。(⑧・⑨)	B	A	○各学年で行っている企画、行事等の総括を集約し、次の学年に整理した情報を提供する仕組みを構築する。 ○進路指導部の学年所属スタッフが、他学年の実施している行事内容についても概要を把握できる仕組みを作る。 ○学期に一度程度、行事履歴を話題にした打ち合わせを実施する。
		職業意識を高めるために、各学年で段階的な指導を行う。とくに2 学年ではインターンシップや一日看護体験を実施して意識付けを行う。(⑪)	A		
		キャリアパスポートを活用し、インターンシップ、バス見学会、職場体験など3 年間を通して、進路意識を高める。(⑪)	B		
	教員間の適切な進路情報の共有をはかる。	進学・就職とも進路情報交換会を開き、次の学年に的確な情報をおくる。(㉒)	A		
		大学や専修学校等の説明会に参加し、的確な情報を教職員・生徒に提供する。(⑨)	A		
	生徒の適性を把握するとともに、進学・就職とも生徒のより高度な目標実現のための手助けをする。	朝ドリル、課外学習の時間等を計画し、生徒の基礎学力を高め、進路実現の可能性を高めていく。(②・⑥)	A		
		生徒の進路満足度を80%以上にする。(⑬)	A		
		教科選択、授業内容、評価、課外等に類型ごとの特色や目標を明確にし、進路指導を行う。(⑭)	A		

別紙様式 2 (高)

特別活動	生徒会活動の活性化	生徒会役員が、率先垂範して生徒たちに自覚ある行動を促すことができるよう指導する。(16・18)	B	B	○学校行事について、生徒主体で企画・運営を行う機会をさらに増やす。 ○生徒会役員との定期的なミーティング等を実施し、生徒会活動に主体性を持たせ、学校行事に反映させる。 ○特別活動部会を定期的開催し、役割分担を明瞭化する。
		生徒総会やクラスマッチ、体育祭などの学校行事について、クラスへの自主的・自発的な行動を促し、生徒を主体とした企画・運営が行えるよう、計画的に指導する。(18)	A		
	学校行事へ積極的に参加する態度の育成	各ホームルーム役員や各種委員会の委員として、クラスマッチや体育祭などの学校行事に積極的に参加する態度を育成するとともに、キャリアパスポートを活用して非認知能力の育成を図る。(18)	B		
		生徒会新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。(18・20)	B		
	部活動の活性化	部活動連絡板やホームページ等を利用し、各部活動の活動状況や活躍を全校生徒に向けアピールする。(19・20)	B		
		部活動紹介や体験入部を行い、部活動加入率の向上を図る。(19)	A		
		日ごろの練習や練習試合等を通して、部活動全体の活性化及びレベルアップを図る。(19)	A		
		日々の活動や学校内外の生活の中での規範意識を育てる。また、活動場所の整理整頓を心がけ、活動環境を整備美化する。(16・19)	B		
	ホームルーム活動の充実	クラスマッチや体育祭などの学校行事を通じて、達成感を味わわせクラスの連帯感や協調性を養う。(18)	A		
		ホームルーム活動でキャリアパスポートを積極的に活用し、定期的に振り返りを行うことで自己理解につなげ、非認知能力の育成を促す。(18)	B		
保健	基本的生活習慣を身に付ける態度の育成	掲示物等を活用した情報発信を行い、健康に関する知識を養う。(15)	B	A	○生徒自身が自分の健康課題に気づき、積極的に保持増進に努められるよう、働きかけをする。 ○関係職員との連携を密にして、情報の共有に努める。
		疾病等の予防と管理を積極的に行えるようにする。(15)	A		
	健康教育・健康相談の推進	性に関する講演会を実施する。(15)	A		
		心身の健康状態を把握し、適切な支援・援助を行う。(17)	B		
		関係職員と情報を共有し、個別の健康相談等を行う。(17)	A		

別紙様式 2 (高)

渉外	家庭・地域との連携及び P T A 活動の活性化	行事の実施の有無及び規模などを柔軟に判断し、生徒育成を目指した P T A の運営を役員と協力して行う。(21)	A	A	○次年度も今年度の状況を踏まえ、保護者や同窓生との連携・協力を継続しながら、各行事を円滑に実施する。
		保護者に興味・関心を持って読んでもらえるような広報誌「志意の樹」を発行して、生徒の活動や普段の取り組みを地域社会に発信する手立ての一つとする。(20)	A		
	同窓会運営の円滑化	同窓会の運営を役員と協力し、円滑に実施する。(20)	A		
情報管理	情報機器管理の徹底	機器貸出に職員室・職員 PC 室のロッカー等を利用する。情報機器管理範囲を明確化する。校務セグメントでのインターネット接続及び校内ネットワーク環境を維持管理する。(22)	A	B	○学習者用端末や Google Classroom、Google フォーム、Google スプレッドシート等のアプリ、電子黒板を使用して授業の中に協働作業を導入するなど、ICT 利用をさらに進める。 ○働き方改革につながる ICT 利用を推進する。 ○校務支援システムで成績処理をする際に、ミスが起きないように操作方法を周知する。
	情報漏洩未然防止のための PC データ管理の徹底	PC データの中で生徒の個人情報に関するものはサーバに保存する。校務支援システムで成績処理を行い、データをクラウド型校務処理サーバに保存する。また、個人保有の外部記憶媒体の利用を禁止し、持ち帰り仕事をなくすように職員間の情報交換を促す校内ネットワークを構築する。(22・23)	B		
	情報機器を活用して授業での ICT 利用を進める。	学習者用端末を活用した授業が実施できるように環境を整える。(1・3) 普通教室での ICT 利用のための教員の自主研修を促す。(3)	B		
図書	図書館施設の安全と充実	書架や図書館資料の保管状態を定期的に点検し、適正な状態で利用できるよう配慮する。(1)	A	A	○図書委員会の内容を見直し、合理的かつ効率的に運営する。
		館内施設の安全と利便性を考慮に入れて、備品の入れ替えやレイアウトを工夫する。(1)	A		
		図書館及び視聴覚室の授業等での利用について、利用表を作成し管理する。(1)	A		
	図書館の資料の拡充	図書資料は、「全国学校図書館協議会図書選定基準」などの客観的な基準および本校の実情に沿って選定・受入する。(8)	B		
		蔵書構成の偏りを是正し、教科指導にも利用できる図書資料を選定・受入する。(8)	B		
	図書館資料と利用者管理の一元化	管理ソフトを活用し、作業効率を高める。(22)	A		
	図書委員会の活性化と読書習慣の涵養	図書だよりを年 9 回発行し、新書の紹介によって、読書の興味・関心につなげる。また、新聞スクラップを行い、図書資料の充実を図る。(18)	A		
		図書委員会を計画的に実施する。(18)	B		

別紙様式 2 (高)

環境防災	学校の安全管理・環境整備・美化に努める。	施設設備の安全点検と管理に努める。(⑰)	B	A	○新入生の避難経路の確認を4月に行い、また防災訓練時には生徒だけでなく新任職員の初期消火訓練も行う。
		防災訓練等を実施し、非常時の対応を学ばせ、併せて防火・防災への意識を高める。(⑱)	A		
福祉	福祉を担う人材として必要な素養と精神を育てる。	生徒の福祉人材としての意識を少しでも高められるように、様々な人との関りや体験を通して学ぶ機会を多く設ける。(⑧⑪)	A	A	○今後も実習施設を中心に地域と連携し、介護福祉士養成校としての役割を果たすよう努める。
	地域と連携し介護福祉士養成校としての役割を果たす。	実習施設との連携を強化し、生徒にとって実習が充実したものになるように努める。(⑧⑪㉑)	A		
		近隣中学校に対して本校福祉科に関する説明を積極的に行うとともにホームページ等で生徒の活動や普段の取り組みの様子などを発信し、目的意識を持った生徒の確保に努める。(⑳㉑)	A		
		介護福祉士養成における情報交換に努め、介護福祉士養成カリキュラムに対する理解の周知徹底と指導の充実を図る。(⑭⑱㉑)	A		
教 科					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	授業目標に沿う授業計画を作成し、担当者が連携することで授業の向上に努める。	指導状況や授業態度等についての情報や教材を交換したり、研究協議を有効活用したりすることによって、わかる授業の展開・授業改善に供する。そして授業改善を通して授業評価の最終的な平均値について3.2以上を目指す。(①・④)	B	B	○基礎学力の定着に向けて、難易度設定を工夫する。 ○授業改善に向けて、ICT教材の活用・共有化、教材の交換などを行う。 ○朝ドリルを効果的に活用する。 ○小テストや単元テストなどを計画的に実施し、効果的な発問の工夫や考えを深める機会を確保する。 ○漢字検定参加を促進する。
	副教材を活用し、基礎学力の定着を図る指導方法を工夫する。	語彙力を高めドリルや授業内容の理解を確認する学習課題を工夫し、進路実現のための基礎学力定着を図る。(②) 漢字検定試験への参加を促すとともに、適宜教材を提供して、生徒の学習に寄与する。(②)	B		
	生徒がより積極的に授業へ参加できるよう方法を工夫し改善する。	生徒の学力に見合った課題や発問の工夫や、ICT機材の活用による視覚的支援によって、授業への積極的参加に供する。(③)	B		

別紙様式 2 (高)

地歴公民	基礎学力の定着を図り、主体的な探究に導く工夫や支援を行う。	小テストを実施して学習内容の定着の度合いを確認する。生徒の興味・関心を持続させ積極的に授業に参加できるよう、タブレットや電子黒板等の視聴覚教材やレプリカなどの実物教材を活用する。(②・③)	B	B	○小テストの実施方法について教科内で検討し、共有化を図る。 ○評価基準等について年間を通して確認し、適正な評価を行う。
	指導方法・評価方法の工夫・改善に努める。	授業進度や生徒のようすなどの情報交換を密に行い、わかる授業や考えさせる授業の指導方法及び説明責任を意識した公平な評価方法について、相互授業参観や研究協議などを通して共有する。(②・③)	B		
	授業展開を工夫・改善する。	教員と生徒間で学習目標を共有し、既習内容等を確認しながらわかる授業を展開するとともに、主体的に考えさせる授業展開を目指す。ノートやプリントの提出により、受け身の受講姿勢からの脱却を意識づけさせ、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(①・③・④)	A		
数学	基礎学力の向上および発展学習のための支援を積極的に行う。	少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にしながら改善を図る。(①)	A	B	○日常生活や実生活に数学が生かされることを感じさせるような数学の教材を工夫する。 ○数学の授業における ICT 利用を進める。 ○引き続き全体で情報共有するとともに、評価や授業について研究協議を行う。
		小、中学校で学んだ考え方や計算を学び直し、プリントを使い基礎学力の向上を図る。(②)	B		
		理解度が不十分な生徒への分かり易い補習授業や、進路を意識した高度な課外授業を実施する。(①・②)	B		
	学習習慣の定着に努める。	授業中のノートや家庭学習用の問題集等を定期的に点検し、学習する習慣をつける。(①)	A		
	教員間の連携をとり授業内容の改善を図る。	教科会等で、授業進度や学習状況等の情報交換、わかる授業展開について指導方法を研究協議する。そして授業改善を通して、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(③・④)	A		
		コンピューターやタブレットなどを活用し、授業改善を図る。(③)	B		
理科	学びなおし学習を導入し、自然現象に関する基礎学力を身に着けさせる。	中学校での既習内容を振り返るとともに、単元ごとに学び直しと問題演習の時間を取り、自然現象に関する基本的な学習内容の定着を図る。(②)	A	A	○ICT 活用をより深めていくために、活用方法を教科内で共有する。 ○「授業の振り返り」「演習」などのデータを集約し、Google Drive 等で共有することで作業の効率化を図る。 ○生徒の疑問点に応えられるよりよいコンテンツを探す。
	探究する力を身に付けさせる。	観察・実験の実施や振り返りなど、ICT も活用しつつ、探究の過程に沿って思考・判断・表現させる。(③)	B		
	興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。	実験や ICT 機器を用いた授業を行い、科学的な現象を身近に体験できる機会を作ること、生徒による主体的な学びを促す。また、授業評価アンケート等を実施し、その結果による授業改善を通して、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(④)	A		

別紙様式 2 (高)

保健体育	基礎体力を高める。	様々な運動を体験できるよう、運動時間を確保する。(①)	B	A	○遅延再生ソフトを利用するなど、ICT を活用した体育授業を展開する。 ○振り返りシートの実施頻度を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力を強化する。
		運動の基礎技術について理解し、積極的に運動に取り組めるようにする。(②)	A		
	運動に親しむ生徒を育てる。	ゲームなどを通して、仲間と協力して運動に取り組む。(③)	A		
		競技・ゲームを楽しめるように、ルールや試合の進行方法を学ばせる。(③)	A		
	自らの心身について関心を高めさせる。	身近な物事や教師自身の体験などから迫り、学習内容に興味・関心を持たせる。(③)	B		
		保健ノートを使用し、学習内容を定着させ、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(②・④)	A		
		視聴覚教材などを利用しながら、自らの健康管理の方法について考えさせる。(③)	A		
家庭	学習内容の定着に向けた取り組みを行う。	小テストの実施や振り返りシートの記入、ワークシートに自分の考えを記入させることで、基礎基本の学習事項が定着するよう促す。(①)(②)	B	A	○実験・実習の時間を確保する。 ○小テストや、授業の振り返りについて集計し、教科間で共有する。 ○ICT 活用方法を共有し、実行する。 ○振り返りシートにさらなる工夫を加える。 ○ホームプロジェクトのテーマ設定については、普段から問題を考えてり、教師から問題を投げかけたりする。
		パソコンやタブレット端末など、ICT の活用や、実物投影機や視聴覚教材を活用し、生徒にとって理解しやすい授業を実施し、授業評価の最終的な平均値を 3.2 以上になるように努める。(③)(④)	A		
	考える力・実践力を育成する。	実習全般を通して実技能力の向上を図る。(②)	B		
		地域と連携した探究活動を実践し、身近な課題に主体的に取り組む意識を養う。(①・③・④)	A		
		ホームプロジェクトの実施により、問題解決のために必要な考える力を養う。(②)	A		
芸術	芸術的な資質・能力を伸ばし、美に対する感性を高め、感興・意欲の触発と高揚に努める。	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、ICT活用を含む学習指導を実践し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業への工夫・改善、評価基準の適正化を図る。(③)	A	A	○自ら書表現の効果に気がつき、理解を深められるよう、ICT 機器の活用を工夫する。 ○タブレットを用いた演奏録音など、自己の演奏技能の向上に生かすことができる ICT 機器活用方法を考案する。 ○深い学びのために、生徒同士の対話的学習を実施する。
		生徒の学習実態に即し、分かりやすい授業展開に努めるとともに、授業改善を通して、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(④)	A		
	学習態勢の整備に努める。	規律ある生活習慣を定着させるため、授業で使用する用具の準備・片付け等をきちんと行う習慣を付けさせる。(⑤)	A		

別紙様式 2 (高)

英語	基礎学力の向上を図る。	学び直しにより中学既習内容を身に付け、高校レベルの英語に対応できるようにする。また、授業改善を通して、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。 (④・⑮)	A	A	○ICT を一層活用し、わかりやすく生徒の主体性を引き出すような授業を実施する。 ○生徒が英語をアウトプットする時間を十分に確保する。 ○個々の生徒の理解度を把握し、きめ細やかな指導を実施する。
	個々の生徒の能力や実態に応じた指導をする。	少人数学級を活用し、適宜学習の理解度を把握し、個に応じたきめ細やかな指導を展開する。(①・②)	B		
	言語や文化に対する理解を深め、実践的コミュニケーション能力を高める。	ペアワークやグループ活動を通してアウトプットする機会を増やし、コミュニケーション力をつけさせる。(③)	A		
		ALT を活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。(③)	A		
情報	情報リテラシーを高める。	情報収集・情報編集・情報発信の方法について実習を通して理解する。(①)	B	B	○プログラミングの理解度について、さらに時間をかけ、一人一人の理解度を上げる。
	情報機器の操作技術を高める。	情報機器としてパソコンの使い方、特にワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方についての技術を習得し向上させる。(①)	A		
	情報モラル育成に努める。	問題解決の方法の一つとしてプログラミングを習得する。また、情報モラルを遵守する精神を養成する。(③)	A		
	授業の改善を行う。	生徒に授業内容に関するアンケートを行い、それを基に授業の改善を行うことで、授業評価の最終的な平均値が 3.2 以上になるように努める。(④)	B		
福祉	福祉人材としての意識と資質を向上させる。	福祉行事や施設実習の他、ボランティア活動や特別支援学校との交流を通して、意欲の向上に取り組むとともに、キャリアを生かした進路につなげる。(⑧・⑪・⑮)	A	A	○実習直前に施設で感染（クラスター）発生のため実習施設を変更することもあったが、大きなトラブルなく実施できた。 ○今後は生徒数が定員を満たすと介護実習の受け入れが難しくなることも懸念される。 ○学校生活や実習を通して知識のほかに、礼儀やマナーについても継続して指導する。
		授業や清掃・学校行事等の日常生活を大切にし、基本的生活習慣・礼儀・マナーの向上を図る。(⑮・⑮)	A		
	介護福祉士国家試験に向けた指導を充実させる。	介護福祉士国家試験全員合格を目指し、十分な授業時間数の確保と基礎・基本を重視した分かりやすい授業を心がけるとともに、課外・模擬試験・演習・実習等多様な指導を実施する。(⑤・⑥・⑦)	A		
		新しい指導法や ICT 活用を含む授業改善を通して、授業評価の最終的な平均値 3.2 以上を目指す。(③・④)	A		

別紙様式 2 (高)

学 年					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1 学年	生徒相互の円滑な人間関係、教員との信頼関係を構築する。	コミュニケーション能力を高めるために、授業や「総合的な探究の時間」、LHR等を通して話し合いの機会を積極的に設け、互いに意見を尊重する姿勢を育てる。(⑩)	A	B	○挨拶、マナー、服装等、「指導されてから直す」のではなく、生徒自身が自ら考えて適切に判断して行動できるよう学年全体で同じ温度感で粘り強く指導に当たる。 ○生徒の円滑な人間関係の構築を目指し、道徳教育や講演会を定期的に行う。 ○「5・3・1運動」を徹底し、遅刻（移動教室も含む）を減らす。 ○「総合的な探究の時間」・LHRを計画的に進め、修学旅行の事前・事後指導、3年生につながる進路指導の充実を図る。
		生徒と丁寧に関わり、生徒の小さな変化や抱えている悩み、問題点の早期発見に努め、家庭や専門機関と連携しながら迅速に対応する。(⑪)	A		
	学習環境の整備と基礎学力の向上を図る。	落ち着いた学習環境を作るために、身の回りの整理整頓、チャイム前着席を推進する。(②)	B		
		朝の時間や週末課題などを活用した学び直し、家庭学習の習慣化に注力し、基礎学力向上を目指す。(②)	B		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に取り組む。	学年職員一体となって、服装、挨拶、マナーの指導を行い、生徒の規範意識を高め、自ら考えて適切に行動する力を育てる。(⑩)	A		
		「5・3・1運動」を推進し、基本的生活習慣を確立する。(⑮)	B		
	3年間を見通した進路設計を立案し、実施する。	生徒の進路意識を高めるため、進路見学会や外部講師による講演会を実施する。(⑨)	A		
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。(⑧)	A		
	特別活動への積極的に参加する意識を育む。	社会生活を営む力を高めるため、積極的に部活動への加入、ボランティアの参加を働きかける。(⑱・⑲)	B		
		キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事やホームルーム活動等を通じて主体的に学校生活に参画する意欲を育てる。(⑩)	B		

別紙様式 2 (高)

2 学年	生徒相互の円滑な人間関係の構築を図る。	コミュニケーション能力を高め、リーダーシップ力を養うために、各授業、学校行事、「総合的な探究の時間」、LHR等を通して話し合い活動を実践し指導する。(15)	B	B	○話し合い活動でのグループ間での差をなくすため、リーダーや司会に責任感を持たせて話し合いができるような状況を整える。 ○問題・課題解決に関して、生徒同士による教え合いの機会を増やす。 ○欠席・遅刻の減少のため、学年指導の徹底と併せて、今後とも家庭と連携しながら継続的に指導する。 ○進路指導部計画の進路行事、面談などの支援・指導に加え、次年度はよりきめ細やかな、個々に応じた進路指導を展開する。 ○キャリアパスポートの継続的な活用を図り、生徒が主体的に目標をもって活動できるようにする。
		生徒の悩みや問題点を把握し、生徒理解をより深めるため、定期的に面談を実施する。(15)	A		
	基本的な生活習慣を確立する。	落ち着いた学習環境を作るため、身の回りの整理整頓を指導する。(16)	B		
		生徒の責任感を涵養するため、一人一役の役割分担を明確にし、係活動や清掃活動を推進する。(16)	A		
		欠席・遅刻・早退を減少させるため、引き続き「5・3・1運動」を推進する。(15)	B		
		毎日の生活を見つめなおすことで、規律ある基本的生活習慣の定着を目指す。(15)	B		
		生徒の生活態度の改善を図るため、保護者との連絡を密にし、理解・協力を求める。(17)	B		
	基礎学力を活かした応用力を向上させる。	日々の授業を大切にし、生徒にわかる授業を展開することで、応用力を身に付けさせるために必要な指導を行う。(1)	A		
		個人で問題を解く練習やグループワーク等を通じて、主体的に考え解決策を見つける力を養う指導を行う。(2)	B		
	進路に対する意識の高揚と目標の具体化を目指す。	きめ細かな進路計画を立案し、進路セミナーやバス見学会、インターンシップ等を実施することで、将来について真剣に考えた上での進路実現を図る。(9・11)	A		
		定期的な進路調査や面談、夏の三者面談等により、具体的な進路目標の確立を図る。(8)	A		
	特別活動へ積極的に参加させ、豊かな心の育成を図る。	キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事やホームルーム活動等を通じて生徒の豊かな心を育むとともに、主体的に学校生活に参画する意欲を育てる。(18)	A		

別紙様式 2 (高)

3 学年	基礎学力の向上を図る。	「朝ドリル」等を活用し、進路に応じた学力を身に付ける。(②)	A	A	○進路実現に向けて、来年度も早い段階で計画を立て指導を行う。 ○進路決定後の遅刻や欠席が多いため、基本的な生活習慣を身につけるための指導を工夫する。 ○Ⅱ類の朝ドリルは、就職試験に役立ったので、来年度も継続したい。 ○ラーケーションが意味のあるものに出来るよう、内規等の整備に参画する。 ○生徒指導に関して、学校で統一した指導が行えるように他学年と連携する。
		生徒が主体的に学べるよう授業を改善しながら、自己解決能力を身に付けられるようにする。(①)	A		
	進路に対応できる能力を身に付ける。	多くの資格取得を目指し、その能力を生かして進路実現につなげる。(⑩)	B		
		「LHR」や「総合的な探究の時間」の中で進路学習を計画し、生徒各自の進路に応じた系統的なプログラムを立案し実施する。また生徒の政治的教養の教育を学年全体で取り組み、社会に参画する態度を育てる (⑭)	A		
		進路希望者に平日の課外・長期休業中の課外や小論文指導を、就職希望者に面接指導を実施することで、生徒の進路希望に合わせた進路実現を目指す。(⑨)	A		
	基本的な生活習慣を確立する。	自己実現に向けて、学校生活の送り方について自ら考えさせ、健康的で意欲的な生活習慣への変容を促す。また、毎日の生活を見つめ、規律ある基本的な生活習慣の定着を目指す。(⑮)	B		
		学校生活の全ての場面で、適切な言葉遣いを使い、適切な行動を取ることが出来るように指導する。(⑯)	B		

※ 評価基準

A : 大変よくできた

B : よくできた

C : やや不十分

D : 不十分